

## 令和元年度 第2回浜松市市民協働推進委員会

日 時：令和元年7月8日(月) 9時15分～10時30分

場 所：浜松市役所 本館8階 第3委員会室

出席者：木村佐枝子委員長、井ノ上美津恵副委員長、河合利行委員、河合洋子委員、  
佐藤真琴委員、中村哲也委員、廣瀬稔也委員、廣野篤男委員  
(オブザーバー) 今中浜松市市民協働センター長

報道関係：2名

傍聴者：0名

事務局：山下市民部長、岡安市民協働・地域政策課長、藤田市民協働・地域政策課長補佐、  
白柳副主幹、長正路副主幹、吉原、神谷

---

### 会議次第

#### 1 開会

#### 2 議事

- (1) 浜松市企業のCSR活動表彰制度について
- (2) その他

#### 3 閉会

#### 〈資料〉

- ・ 浜松市企業のCSR活動表彰制度の見直しについて . . . . . 資料1
- ・ 浜松市市民協働を進めるための基本指針 . . . . . 資料2

## 1 開会

- 事務局 : ただ今から令和元年度第2回浜松市市民協働推進委員会を開催する。  
本日は、海野委員、山本委員から欠席される旨の連絡を受けている。  
また、今中市民協働センター・センター長には、オブザーバーとして出席いただいている。本日の終了時刻は、10時30分を予定している。

### ※資料の確認

- それでは、ここからの議事進行は、木村委員長にお願いします。  
木村委員長 : 初めに本会議の公開・非公開について確認する。本日の会議は、全て公開でよろしいか。

—委員一同異議なし—

それでは本日の会議は、公開で行う。

## 2 議事

### (1) 浜松市企業のCSR活動表彰制度について

- 木村委員長 : この件について、事務局から説明を求める。  
事務局 : ※資料1に基づき説明。  
補足させていただく。今回、市民協働奨励賞を新たに設けるという提案をさせていただいているが、この賞の受賞については、これまでの特別賞と同様に1~2社程度を考えている。その他、今回の見直しの提案については、これまでの委員会で委員の皆さんからいただいた意見をほぼ反映しているのではないかと考えている。  
木村委員長 : 今の説明に関して、質問や意見など、発言をお願いしたい。  
佐藤委員 : 広報手段は、例年通りで広く周知できるのか。市のFacebookやTwitterに掲載してPRしたらどうか。  
事務局 : 検討する。また、昨年度は市の商工会議所に周知をお願いした経緯があるが、今年度は市内の各商工会にも周知したい。  
井上副委員長 : FacebookやTwitterに掲載するだけでなく、シェアを依頼して広く周知させることが必要である。  
廣野委員 : 自治会も地域の企業や団体とのつながりが希薄になっている中、市民協働奨励賞のような賞を設けることにより、地域がより良くなることを期待したい。  
廣瀬委員 : 市民協働奨励賞に該当する地域と協働による取組みのなかで、特に優秀であれば優秀賞ということになるのか。新設された市民協働奨励賞が単に優秀賞の

次点のように位置づけられると、せっかく新設された賞の意義が伝わらないのではないかと感じる。

- 河合利行委員 : 重複受賞はなしとなっているが、ありとしてもよいのではないか。
- 河合洋子委員 : 今年から設けられた新しい賞をクローズアップした方が新しい賞のPRにもなり、特別感が出るので、重複受賞はなしとした方がよいと考える。  
また、市民協働奨励賞は、該当なしもあり得るか。
- 事務局 : 特別賞と同様に該当なしということも起こり得る。
- 廣野委員 : 市民協働奨励賞を受賞すればそれが励みになり、地域活性化につながる。受賞者の上限を1~2社ではなく、3社くらいまで増やしていただくとありがたい。
- 事務局 : 検討する。
- 今中センター長 : 賞を受賞した企業が、活動を発展させるなどして、再度応募することは可能か。
- 事務局 : 年度が異なれば可能である。
- 佐藤委員 : 応募総数の目標などはあるのか。
- 事務局 : 昨年が6件、一昨年在17件である。一昨年の応募数あたりを目標としたい。
- 井ノ上副委員長 : 応募数が減少している理由について、企業からその理由につながるような意見が出てきたことはあったか。
- 事務局 : 特にはなかった。
- 木村委員長 : 以前の委員会の中で、応募数が減少した理由の一つとして、自治会からの推薦が少なかったということが挙げられていたことから、自治会へのPRも重要である。
- 井ノ上副委員長 : 自治会と協働している企業の数はまだ少ないため、一つの自治会からの推薦は一度限りということが考えられる。
- 佐藤委員 : 企業側からすると自分たちの活動がCSR活動に該当するという認識がなく、SDGsについても理解できているのは1割くらいだと感じる。自分たちの活動がSDGsの何に該当するかというところまで達していないのが現状である。そういった現状を踏まえ、過去の受賞企業の活動内容、SDGsの何に該当するのかなどの参考事例を提示するとわかりやすい。
- 事務局 : 本日の委員会の意見を踏まえ、これからチラシを作成していく。今年度はチラシの中に過去の受賞の事例を掲載することを考えている。また、自治会に対して、過去の推薦の事例を紹介する予定である。
- 佐藤委員 : 自治会から企業へのアプローチは難しいのではないかと考えられるため、自治会と企業がマッチングできるような機会があるとよい。

## (2) その他

- 木村委員長 : 事務局からその他の報告事項等があればお願いしたい。
- 事務局 : 予定通り7月1日に浜松市市民協働を進めるための基本指針の改定を行うことができた。これから市民協働の全ての事業について、3つの柱、4つの主体の考え方に基づいて実施していく。また、今後、概要版を使って市民の皆さまに指針の内容を周知していきたいと考えている。

### 3 閉会

- 事務局 : 以上をもって、令和元年度第2回浜松市市民協働推進委員会を閉会する。